

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	J02
プログラム名称	インタラクティブ物質科学・カデットプログラム		
プログラム責任者	河原 源太	プログラム コーディネーター	木村 剛

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### 【総括評価】

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

#### 【コメント】

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、物質科学研究・事業における幹部候補生を養成することを目的としてカリキュラムを明確に設定しており、カデットコア科目・異分野専門科目のコースワークと、研究室ローテーション・インターンシップ・海外研修による教育が順調に行われていると評価できる。「インタラクティブ」をキーワードにして、対話性・双方向性による相乗効果の概念を、物質科学における教育と研究の中で実践している。学生の満足度・負担・到達度を把握しながら、基礎工学研究科・理学研究科・工学研究科の9専攻が密接に連携してプログラムに取り組んでおり、順調に事業運営を進めていると評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長および活躍の実現性については、アドバイザー企業・協力企業のリーダーや企業出身の教員による特別講義、カデットバル（講話・懇談会）及び必修のインターンシップ・海外研修により、確かな基礎力とともに広い視野をもつグローバルリーダーが育つことが期待される。キャリアパス教育と支援の体制が整備されており、プログラムの年次進行とともに産業界を志望する学生が増えるなど、多様なセクターで活躍する幹部候補生の養成を目的とする本プログラムの成果が出てきている。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、英語教育担当特任教員や、入門科目とメンターを担当する若手特任教員を本プログラムで雇用し、学生のレベルを把握した実効性のある英語教育や異分野科目教育に加え、学生に対するきめ細かい支援を行っており、プログラム担当教員とともに「協働・対話して、皆で育てる」という組織的な支援体制が構築されていると評価できる。協定大学等への海外派遣、国際会議の開催等の国際ネットワーク作りが進められているが、今後はさらに高い国際突破力や国際性を身につけるための工夫が望まれる。

優秀な学生の獲得については、明確なアドミッションポリシーと選考基準・方法を整備しており、プログラムの趣旨を理解した、意欲のある優秀な学生を確保している。今後は他大学出身者、留学生、女性の割合を増やして、多様な学生を確保することが望まれる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、研究科の修了要件・学位審査基準に基づく審査に加え、本プログラムが課す3段階の **Qualifying Examination (QE)** と **Final Examination (FE)** を行うことによってプログラム修了を認める審査体制となっており、従来の学位の質とグローバルリーダーの資質能力の両方を保証する仕組みが構築されている。QE および学位審査は企業アドバイザー委員や外部評価委員も参加すると

いう開かれた体制になっており、評価できる。

事業の定着・発展については、「大阪大学未来戦略機構」を設け、大学全体として機動的なマネジメントを行うとともに、リーディングプログラムを大学院教育改革のモデルとして全学に拡大していくという計画を検討している。本プログラムに対する学内外の評価に基づいて、支援期間終了後におけるカリキュラムの定着・発展に向けた具体的な検討が進められていることは評価できる。